



報道関係各位

2016年12月12日

東京経済大学ニュース

Vol. 06

東京経済大学ホームページ : <http://www.tku.ac.jp/>

CONTENTS

特集1 「教職支援室」「教職ラウンジ」誕生

教師を目指す学生たちの学びの場に

特集2 「WEEKDAY CAMPUS VISIT」導入

高校生のための「1日大学生」体験

東経大インフォメーション

- ① **日本初・シニア向け大学院博士課程入試を開始**
コミュニケーション学研究科が実務経験のある大学院生を募集
- ② **2016年オープンキャンパス報告**
6486人と過去最多の来場者数を記録
- ③ **国際シンポジウム報告**
「自治しうる〈主体〉と〈場〉を問いなおす」
- ④ **卒業生の業界別団体による学生支援**
「安心の、就職力。」を支える
- ⑤ **体育会サッカー部 東京都大学サッカーリーグ1部で初優勝**
1部昇格を果たした1年目で優勝の快挙
- ⑥ **夏季海外ゼミ研修**
11のゼミが10カ国・地域で研修を実施
- ⑦ **その他**
 - ・大倉喜八郎記念東京経済大学学術芸術振興会 学術講演会
 - 「バイオロギングでモニタリングする海洋動物と地球環境:空飛ぶ風見鳥」

特集1 「教職支援室」「教職ラウンジ」誕生

～教師を目指す学生たちの学びの場に～



教職課程担当 高井良健一 経営学部教授(右)

2016年6月1日(水)、「教職支援室」ならびに「教職ラウンジ」と呼ばれる新たな学びの空間が本格オープンしました。

「教職支援室」は、教職課程を履修している学生やそれについて知りたいと考えている学生が、学修上の諸手続を行ったり相談を行ったりする場所です。現在は専任職員1名とサポートスタッフ1名が常駐、教職課程の専任教員3名が相談に対応しています。

「教職ラウンジ」は、教職課程を履修している学生が相互に学び合うための空間で、模擬授業のための黒板、可動式の机、椅子、AV機器のほか、各教科の教科書や副教材、教育新聞(小・中・高校教師のための教育専門全国紙)、学生が実際に教育実習で作成した指導案などが備えられています。ここは、本学の教職課程で学ぶ学生にとって念願の空間でした。これまでも教師を



志す意欲の高い学生はいましたが、個人の努力にとどまり、ネットワークとして広がっていないのが実情でした。教育実習が近づくと、ひとり図書館で授業づくりの教材研究を行い教員採用試験の勉強をするという学習スタイルが主流だったため、数年前から「教職課程で共に学ぶ仲間たちと切磋琢磨できる空間がほしい」という切実な声が学生から上がっていたのです。

このラウンジが開設されたことで、学生たちの学びは自律的で、協働的なものに変容してきました。具体的には、有志の学生たちが自主的に学びの企画を立ち上げ、定期的に模擬授業を行う機会を持つなど、学生主体の学びが広がっています。ここで授業の腕を磨くことにより、教育実習でベテラン教師顔負けの授業を実現した学生も現れました。

本年度の教員採用試験では、倍率が高く最難関といわれている高校公民において現役での合格者が出ました。このように、「教職ラウンジ」の教育効果は、少しずつですが、はっきりと形をとってきています。

これから全国の大学の教職課程は、淘汰の時代を迎えます。実質的な教育機能を担うことができなければ存続することが難しくなります。今後、教職課程は大学における学びのカリキュラムをさらに充実させるとともに、教育委員会との連携、学校でのインターンシップの学びなどを包括しながら、より高度で実践的な教員養成のプログラムを準備していくことが求められています。



「教職支援室」での模擬授業風景。

特集2 「WEEKDAY CAMPUS VISIT」導入

～高校生のための「1日大学生」体験～

「WEEKDAY CAMPUS VISIT（ウィークデー・キャンパス・ビジット）」はNPO法人NEWVERYが行う取り組みのひとつで、実際に大学生が出席している講義に参加したり、学食で食事をとったりと、高校生が「普通の大学」を体験することができます。

WEEKDAY CAMPUS VISIT の4つのポイント	
ポイント1	普通の授業が受けられる 高校生用に用意された模擬授業ではなく、実際に東京経済大学の学生たちが、普段受けている授業に参加することができます。
ポイント2	大学の見方がわかる 専門のトレーニングを受けたコーディネーターと一緒に、大学や進路について考えを深めることができます。
ポイント3	大学の1日を体験できる 一緒に授業を受けたり、学食で食事をしたりと、大学生が過ごすような1日を過ごしてもらいます。
ポイント4	高校1年生から3年生まで参加できる 大学での学びを体験することや学部を選択、大学選びなど、それぞれの段階や目的に合わせて参加することができます。

「WEEKDAY CAMPUS VISIT」の狙いは大学の中身を深く知り、偏差値ではなく「自分に合った大学」を選択することで進学後のミスマッチを減らすこと。これは高校生と大学の双方にメリットがあります。大学が実施する通常のオープンキャンパスでは、高校生向けの体験授業や大学のPRポイントを紹介するにとどまりますが、この「WEEKDAY CAMPUS VISIT」は、ありのままの大学生活を体験できるのです。



大学の講義を体験する前に、コーディネーターによるガイダンスを実施。参加する高校生にとって有意義な体験になるよう、自分の進路について考えてもらいます。その後、大・中教室で行われる講義と昼食をはさみ、少人数で行われるゼミを体験。プログラムの最後には振り返りのワークを行い、その日体験した授業や学生たちの様子などを他の参加者と共有し、得られた気付きなどを整理して終了となります。

参加した高校生は、実体験を通じて自身の進路について考えることができる貴重な体験に対し、「思っていた以上に大学の授業は難しかった」「先生との距離が近くて良かった」「ゼミの時、大学生が丁寧に教えてくれたのでやりやすかった」と感想を話していました。



東経大インフォメーション

Information 1

全国初・“シニア向け大学院博士課程”入試を開始

コミュニケーション学研究科が実務経験のある大学院生を募集

東京経済大学の大学院コミュニケーション学研究科では、2017年4月から全国初となるシニア向け（入学時に満52歳以上）に特化した正規の大学院博士課程入試を開始します。国内外の大学院修士課程を修了した方を対象とし、書類審査と面接だけで受験可能です。修士号取得後、社会で実務経験を積んだ方がブランクを気にせず応募できる利点があります。

<背景>

近年、社会人の大学院進学意欲は高まり、ここ約20年間で在籍者数は約2倍。文部科学省の「学校基本調査」によれば、2014年に大学院へ入学した社会人は約1万8000人（大学院入学者全体の18.2%）。うち博士課程の社会人入学者（2014年）は約5800人（同37.7%）を占めています。また、海外の大学院への留学や、専門職大学院への入学などを経て、修士号を取得した社会人も増加しています。しかし、仕事をしながら大学院へ通うのは時間的に難しいケースが少なくありません。こうした背景を鑑み、さらに高度化した内容を求める方々を対象として、入学時に満52歳以上を対象とした、「シニア向け大学院博士課程」を導入することとなりました。

<東京経済大学の取り組み>

本学では、2002年からシニア向けの研究生制度（非正規）を開設。2007年から正規の大学院修士課程のシニア向け入試を導入。本学のシニア大学院は、「大学院修士課程の在学期間が通常2年のところ、シニア大学院生に限って、2年分の学費で最大4年まで在籍を延長することが可能な制度」で、導入当初から実施。今回の制度は、これを博士課程に拡大したものです。

<シニア向け大学院博士課程出願概要>

出願期間は2017年1月5日（木）から1月11日（水）（必着）となります。

その際に、修士論文や研究計画書等をご提出ください。面接試験は2月18日（土）です。

※備考：コミュニケーション学研究科では、修士課程と博士課程の一般入試（書類審査・専門試験・英語・面接）のほか、修士課程では、書類審査と面接のみで選考する社会人向け入試や、シニア大学院（満52歳以上・4年間在籍しても2年分の授業料で可）の入試も継続。出願期間は上記と同じです（このほか留学生向け入試も実施します）。

Information 2

2016年オープンキャンパス報告

6486人と過去最大の来場者数を記録

本学は今年のオープンキャンパスを夏と秋に計6日間実施。過去最多となる6486人の来場者を迎えました。

夏のオープンキャンパスは7月から8月にかけて4日間開催。東京経済大学の学びの紹介として既存4学部のガイダンスや体験授業とともに、2017年度からスタートする「キャリアデザインプログラム」のガイダンスやワークショップを実施。来場者と学生スタッフがチームを組み、与えられた課題に対して話し合いを行い、手を動かしながら試行錯誤することで協働の醍醐味を味わいました。

今年は学生主体のイベントも多数企画され、「ゼミ発表会」や「ゼミ活動ポスターセッション」でゼミでの学びを紹介したほか、実演しながらクラブやサークルの活動紹介を行うなど、リアルな大学生活を学生が自らPRしました。

また昨年につき、女性限定の相談・本音トークコーナーである「女子カフェ」も“開店”。来場者はお茶やお菓子を口に運びながら、気兼ねすることなく在学生との「女子トーク」をエンジョイしました。特に高校生にとっては、先輩の雰囲気から自身の近い将来をイメージするいい機会になったでしょう。

大学祭と同時開催となった10月末のオープンキャンパスは2日間実施。推薦入試や一般受験を控えた高校3年生が多く来場しました。



話を聞くだけではなく、考えながら手を動かして作業する面白さを体験できるため、リアルな大学生活を知ることができるかと好評です。

Information 3

国際シンポジウム報告

「自治しうる〈主体〉と〈場〉を問いなおす」

東京経済大学学術研究センター主催の「自治」をテーマとした国際シンポジウム「自治しうる〈主体〉と〈場〉を問いなおすー基礎自治体のサステナビリティとローカル・ガバナンスに関する国際シンポジウムー」が2016年11月5日（土）、6日（日）の2日間、東京経済大学大倉喜八郎 進一層館（フォワードホール）で行われ、延べ180名が参加しました。

2日目の午前中に行われた視点提起では、東京医科大学哲学教室の西研教授と東京経済大学現代法学部長の羽貝正美教授が、「自治の主体の危機と再構築の展望」と題し、地域の人々が自治への関心を取り戻す方法について報告。続いて、金沢工業大学環境・建築学部の山田圭二郎准教授らによる、風景と自治を担う主体者の関係性を考える「〈場〉（空間ー社会構造）とローカル・ガバナンスの動的関係」、東京工業大学の中村良夫名誉教授による、風物詩の重要性について問いなおす「風土自治論の可能性」と題した発表がありました。

同日午後は「自治とは何か」をテーマとしたパネルディスカッションが行われ、ファシリテーターを早稲田大学公共政策研究所の藤倉英世招聘研究員が担当し、パネリストとしてフランスのリヨンス＝ラ＝フォレ市長のティエリー・ブルヴィエ氏やドイツのコルンラーデ市長のアンネ・ヴィルケンス＝リンデマン氏、開田高原倶楽部事務局長の大目富美雄氏、公益財団法人妻籠を愛する会常務理事の藤原義則氏らが参加しました。

パネリストが各自治体の自治方法、住民の自治参加の現状について報告した後、正しい自治とはどういうことかについての熱い議論が繰り広げられました。

パネルディスカッションを終えた後、ファシリテーターを務めた藤倉招聘研究員は「自治とは住民や共同体が自己実現を行う場のことではないだろうか」と総括を述べ、2日間にわたって行われたシンポジウムの幕が閉じました。



Information 4

卒業生の業界別団体による学生支援

「安心の、就職力。」を支える

就職に強いといわれる東京経済大学。その理由として、1年次から専門のスタッフによるきめ細やかなキャリア支援と大学での学び、そして課外活動によって社会人基礎力を育成し、社会で活躍できる下地をつくっていることが挙げられます。

また、さまざまな分野で活躍している卒業生の多さも理由のひとつ。学生の就職支援を目的に業界別の卒業生団体が組織され、後輩たちの支援にあたっています。毎年10月から12月にかけて、各業界で働く卒業生が出席する講演会や懇談会が行われ、参加した学生たちは仕事や業界の話を聞くことができます。

放送や出版、通信、広告、芸術関係の仕事に就く卒業生が所属する「葵マスコミ会」が10月13日（木）に行われました。卒業生が20名ほど出席して70名を超える学生と懇談。将来アナウンサー職に就きたいという女子学生は「実際にアナウンスの仕事をする人に話を聞き、人と話すことが好きなのか、何かを伝えることが好きなのかなど、自分がやりたいことを深く考えるきっかけを頂きとても参考になりました」と話していました。移り変わりが激しく、学生にとって分かりづらい業界だからこそ、現場で働く人の生の声を聞きしっかり理解することが大切です。

また11月4日（金）にはメーカー、卸売、小売、物流など流通関係の仕事をする卒業生の団体「葵流通会」が行われました。50名を超える卒業生と150名近い学生が一堂に会し、学生たちは実際に各分野で活躍する卒業生から仕事の舞台裏を聞き出していました。想像と実態とのギャップを感じたと話す学生も多くいますが、進路選択において大きな役割を果たしていると言えるでしょう。

12月には「流通会」と同規模で「葵金融会」が行われ、金融関係の仕事を目指す学生が卒業生と懇談する予定です。

こうした各業界団体の他にも、大学の同窓会「葵友会（きゆうかい）」の全国支部に就職協力委員を配置し、UターンやIターン就職を考える学生の支援にあたっています。



業界団体に所属する卒業生が後輩の在学生に対し、それぞれの職業の実態など体験談を伝えます。



Information 5

体育会サッカー部 東京都大学サッカーリーグ 1 部で初優勝

1 部昇格を果たした 1 年目で優勝の快挙

第 49 回 東京都大学サッカーリーグ戦 1 部第 18 節の最終試合が 2016 年 10 月 16 日（日）、本学武蔵村山キャンパスグラウンドで行われました。

東京経済大学サッカー部は国学院大学に 3 対 1 で勝利し、創部以来初の東京都リーグ 1 部で優勝を飾りました。同部は昨年、東京都大学サッカーリーグ 2 部で優勝、本年度から 1 部に昇格したばかりでの優勝となります。

その後、東京都大学サッカーリーグ 1 部では見事 1 位となり、関東大学サッカーリーグ参戦をかけて昇格戦に臨みましたが、残念ながら昇格することはできませんでした。

しかし、第 49 回東京都大学サッカーリーグ 1 部の最優秀選手賞には、同リーグのアシスト王にも輝いている本学サッカー部の高橋勇太さん（現代法 3 年）が選ばれました。

サッカー部をはじめとする体育会各部の活動拠点である武蔵村山キャンパスは、昨年全面リニューアルを行い、各部の練習環境が大きく改善されました。それが部員数増加などにつながり、試合でも良い結果が残されるという好循環となっています。



惜しくも関東大学サッカーリーグ参戦を果たすことはできませんでしたが、高橋勇太さん（現代法 3 年）は第 49 回東京都大学サッカーリーグ 1 部の最優秀選手に選ばれました。



Information 6

夏季海外ゼミ研修

11のゼミが10カ国・地域で研修を実施

東京経済大学には、夏季や春季などの長期休暇を利用して世界各国に出向き、現地にある大学で合同ゼミを行ったり、現地の企業や施設で見学や意見の交換をしたりする「海外ゼミ研修」制度があります。

2016年度の夏季休暇期間には、11のゼミがシンガポールやマレーシアなど10カ国・地域で研修を実施し、10月には各ゼミが昼休みを利用してその成果についての報告を行いました。

羅 欽鎮ゼミ	21名参加	8月5日～12日（8日間）	研修先：シンガポール・マレーシア
アジアトップ大学のシンガポール国立大学の学生と交流し、マレーシア進出の日系企業を訪問した。人種、宗教、文化、言語の多様性を体験し、国際社会での活躍に必要な寛容性を学んだ。また、日系企業のアジア進出に伴う経営戦略、研究開発、労務管理についても学んだ。			
関口和代ゼミ	20名参加	8月16日～24日（9日間）	研修先：デンマーク
雇用や人材についての調査研究をゼミで行っており、今回は日本と異なる仕組みや背景を持つ「世界一幸せな国・デンマーク」の実態調査を行った。訪問先企業では、ワーク・ライフ・バランスやマネジメントについて、また現地大学生や若手会社員との交流を通じて労働観や人生観の一端を学んだ。			
橋谷 弘ゼミ	19名参加	8月23日～29日（7日間）	研修先：タイ
現代バンコクの都市再開発の実態を見るためアジアティークリバー・フロントをはじめとする商業施設を見学。他にもアユタヤを訪問し、寺院の遺跡や都市空間の構造などの見学をはじめとし、歴史的地区を訪れた。			
奥山正司ゼミ	11名参加	8月29日～9月8日（11日間）	研修先：デンマーク・スウェーデン
高齢者福祉を学ぶゼミとして、福祉国家として一人ひとりがどのような生活をしているかに主眼を置き、デンマークのさまざまな生活段階にある人々と接触することを目的とした。保育園、小学校、福祉の補助器具センター、高齢者ケアセンター、認知症ケアセンター等を訪問し多くの人と話し合い、その実態を理解した。			
関 昭典ゼミ	13名参加	9月3日～16日（14日間）	研修先：ベトナム
国連総会で採択された「持続可能な開発目標」をテーマに掲げ、有識者の講義を受けたほか、フィールド調査や貧困地域へのゴミ箱の設置を行い、ベトナムの大学生と2週間寝起きを共にし共同で学びを深めた。特にグエン・ドク氏（「ベトちゃん、ドクちゃん」として日本では有名）の講演は、戦争や日越友好について考える良い機会となった。			



西下彰俊ゼミ	8名参加	9月4日～9日(6日間)	研修先：韓国
高齢者福祉を専門とするゼミのため、高齢者療養院や高齢者福祉館を訪問。ボランティアセンターの研修では、日本と異なる独自のボランティア登録システム等について学んだ。協定校の三育大学社会福祉学部との共同セミナーでは、ボランティア政策について研究発表を行った。			
渡辺龍也ゼミ	10名参加	9月4日～12日(9日間)	研修先：オランダ
「世界フェアトレード機構」が本部を置く中心国オランダで、フェアトレードの誕生から今日までの歴史を学んだ。「フェアトレード・シティ」のひとつデビルト市では、市長直々に説明を受け、小学校訪問では小さいころからフェアトレードについて教育を受けていることを知った。また、フェアトレード商品がスーパーでどのくらい取り扱われているかの実態調査も行い、日本との浸透度の違いを目の当たりにした。			
川浦康至ゼミ	9名参加	9月5日～9日(5日間)	研修先：韓国
韓国・大田市の培材大学を訪問し韓国文化体験を行った。日本語学科の授業に参加したほか、韓国の学生へのインタビューも行った。			
小林健一ゼミ	23名参加	9月5日～10日(6日間)	研修先：タイ
いすゞ自動車工場の見学を行い、「アセアン自動車工業の現在と未来」という本学卒業生の講演を聞いた。また別の卒業生の紹介で、エアコン世界一の日本企業「ダイキン」の子会社を見学。両工場ともに日本に劣らない技術・管理能力があり、日本の製造業がアジアなくては成り立たないことが理解できた。			
カレイラ 松崎順子ゼミ	9名参加	9月11日～17日(7日間)	研修先：ハワイ
日本文化を英語で伝えることを目標とし、現地ミッションスクールで小学生に折り紙を英語で教える活動を行った。また英語力向上のため、外国人に日本についてのインタビューを実施。さらに日系移民の歴史や現状、ハワイ王朝の歴史を調べ、知識を深めた。			
大榎 淳ゼミ	12名参加	9月13日～18日(6日間)	研修先：台湾
現代芸術の国際展「台北ビエンナーレ 2016」の見学と、市内の文化施設を訪問。使用しなくなった公共施設や学校を芸術家のアトリエやギャラリーに転用し、古い住宅街を丸ごと芸術家の滞在施設に変えるなど、積極的に芸術家支援を行う台湾の文化政策を肌で感じた。			



関 昭典ゼミは、国連総会で採択された「持続可能な開発目標」をテーマにベトナムで研修を行いました。

Information 7 その他

●大倉喜八郎記念東京経済大学学術芸術振興会
学術講演会

「バイオリギングでモニタリングする海洋動物と地球環境：空飛ぶ風見鳥」

海鳥やウミガメ、クジラやマンボウなど、誰でも姿形を思い浮かべることができる動物たちが、実際に海でどのように暮らしているか知っている人は多くありません。

観察が難しい動物たちの行動やその周辺環境を調べるため考案された、『バイオリギング』という手法、そして最新の研究成果やバイオリギングが目指している世界を、東京大学大気海洋研究所 海洋生命科学部門行動生態計測分野の佐藤克文教授が紹介します。



東京経済大学

日時	2016年12月17日(土) 開演 15:00(14:30 開場)
会場	東京経済大学 国分寺キャンパス 2号館 B301 教室 ※会場変更の場合があります。
参加費	無料 ※事前申込制
申込方法	申込用紙に氏名、郵便番号、住所、電話番号、参加人数を記載し FAX または 郵送(12月13日必着)。 Web(http://www.tku.ac.jp/)からも参加申込ができます。 (〒185-8502 東京都国分寺市南町 1-7-34 東京経済大学 広報課)
定員	先着 400名 (申込順に予約券を発送いたします) ※定員に達し次第、受付を締め切らせていただきます。
問い合わせ先	広報課 電話(042)328-7900 FAX(042)328-7768 Eメール pr@s.tku.ac.jp

【東京経済大学 総合企画部 広報課】

〒185-8502 東京都国分寺市南町 1-7-34

TEL:042-328-7724 FAX:042-328-7768 email:pr@s.tku.ac.jp